

ロシアの警告

【訳者注】このサイトの顔とも言うべき人々を含む 4 名が、とうとう連名で、ワシントンや無知な米国民に、軽挙妄動を戒める警告文を突きつけた。異例のことだが、それだけ世界が一触即発の危ない状態にあるということである。そのこと自体を、日本のメディアはほとんど無視している。そしてテレビでは、ロシアを悪者にしてシリアを解説する人がいる。どうか冷静にこれを読んでいただきたい。警告者は米露両方の事情に通じた米在住のロシア人たちである。恐ろしいのは、ロシア国境で何かがあった場合、“ロシアが先に手を出した”説が必ず喧伝され、人々がそれを信ずることだが、これは理性的に考えて、世界の環視の中で自国が敵に包囲されたとき、絶対には取らない行動であろう。

しかしもっと恐ろしいのは、「“ヒステリック” から“自殺的” へはほんの一步である。アメリカの政治指導者たちは、要自殺監視の扱いを必要としている」（4 頁）という非常に的確な文章で、この自殺は、地球道づれの自殺という意味である。ドストエフスキーのある人物は、神に反逆する最上の方法は自殺だと言った。その頃、地球道づれということは考えられなかった。今は、彼らの最期に最もふさわしい (!)、この自殺の方法が、十分に可能である。

Dmitry Orlov, The Saker, Victor Katsap and Evgenia Gurevich
June 2, 2016, Information Clearing House



我々、下に署名する者たちは、アメリカに住み仕事をしているロシア人である。我々は、現行のアメリカと NATO の政策が、ロシア連邦および中国との極度に危険な衝突の道筋へと、我々を追いやるのを、ますます深刻な懸念をもって注目してきた。Paul Craig Roberts, Stephen Cohen, Philip Giraldi, Ray McGovern, その他多くの、尊敬される愛国者であるアメリカ人が、不気味に迫る第三次大戦への警告を発し続けている。しかし彼らの声は、ロシ

ア経済が崩壊しているとか、ロシア軍は弱いといった、すべて証拠に基づかない、虚偽の不正確な物語に満ちたマスメディアの騒音の中に、ほとんどかき消されている。しかし、我々、ロシアの歴史と、現在のロシア社会とロシア軍の状態を、ともに知っている者たちは、こういったウソを呑み込むことはできない。我々は、今、アメリカに住むロシア人として、アメリカ人民はウソを教え込まれていると警告し、彼らに真実を知らせることが、我々の義務であると感じている。そして、その真実とは単純にこういうことである：――

もしロシアとの戦争が始まるならば、アメリカはほとんど確実に破壊されるだろう、そして我々のほとんどは死ぬことになるだろう。

一歩退いて、今起こっていることを、歴史的なコンテキストの中に置いてみよう。ロシアはこれまで、外国の侵略者の手によって多大の苦しみを味わい、第二次大戦では、2,200万の人命を失った。国土が侵略されたために、死者のほとんどは一般市民であった。そしてロシア人たちは、このような悲惨な出来事は二度と起こさせないと誓っている。ロシアは侵略される度ごとに勝利して蘇った。1812年にナポレオンが、ロシアを侵略し、1814年にはロシアの騎兵隊がパリへ入城した。1941年6月22日には、ヒトラーの *Lutwaffe*（空軍）がキエフを爆撃し、1945年5月8日には、ソビエト軍がベルリン市内を行進した。

しかしその後時代は変わった。もしヒトラーが、今日のロシアを攻撃するとしたら、彼は20分か30分後には死ぬだろう。そして彼の地下壕は、バルト海のどこかの、小さなロシア海軍船から発射された、*Kalibr* 超音速巡航ミサイルによる攻撃で、燃える瓦礫になっているだろう。新しいロシア軍の実戦能力は、最近の、*ISIS* やアルヌスラや、他のシリアで戦っている、外国の支援によるテロリスト集団への攻撃のさいに、十分な説得力をもって証明された。ずっと前には、ロシアは、自分自身の領土で地上戦を戦い、したがって反侵略をすることによって、挑発に応じなければならなかった。今はもうその必要はない。ロシアの新しい兵器は、報復を、瞬時に、見つけられないで、停止することなく、完全に致死的に行うことができる。

だからもし明日に、米露の間で戦争が起こったとしても、アメリカが消滅させられることは保証できる。最小の予想でも、送電網、インターネット、石油やガスのパイプライン、国内高速道路網、航空機、*GPS* によるナビゲーションなどは、すべて使えなくなるだろう。金融センターは廃墟となるだろう。政府はあらゆるレベルで機能停止するだろう。地球上の至るところにある米軍基地は、もはや補給されないだろう。最大に見積もれば、アメリカの陸地全体が、放射能灰の厚い層に覆われるだろう。我々がこれを言うのは、人騒がせが目的でなく、我々の知るすべてに基づいて、我々自身が危険だからである。もし攻撃されれば、ロシアは引き下がることはない。ロシアは報復する。そしてアメリカ合衆国を完全に消滅させ

るだろう。

アメリカの指導部は、状況を大災害の瀬戸際にまで追い込むために、可能なあらゆることをやっている。まず、彼らの反ロシア政策は、ロシアの指導部に、西側に譲歩したり交渉したりすることは無駄だと確信させた。西側は常に、どんな個人でも運動でも政府でも、反ロシアであるものを支持しようとする意志をもっている——税金をごまかすロシアの幹部であろうと、有罪となったウクライナの戦争犯罪人、また、サウジに支援されたチェチュニアのワッハービ・テロリスト、あるいは、モスクワの寺院を冒涇するやくざであろうと。現在、NATO は以前の約束を破って、ロシア国境ぎりぎりにまで迫り、米軍はバルト諸国に配備されていて、ロシア第二の大都市、ザンクトペテルブルグを砲撃の射程におさめているので、退くべき場所がどこにもない。彼らは攻撃はしないが、退くことも降伏もしないだろう。ロシアの指導部は、80%以上の民衆の支持を得ており、残りの20%は、西側の侵食に対してあまりにも弱腰だと考えているようだ。しかしロシアは報復する意志はもっている。だから挑発や単純なミステークでも、一連の事件を引き起こし、何百万人のアメリカ人の死と国土の破壊をもたらす危険がある。

戦争を、わくわくする、勝ち戦の外国の冒険と見る、多くのアメリカ人とは違って、ロシア人は戦争を憎み怖れている。しかし同時に、彼らは尻込みすることはなく、今では数年も前から戦争に備えている。彼らの準備は、最も効率のよいものになっている。F-35 多機能戦闘機のような、怪しげな超高額な兵器プログラムに、莫大なカネを浪費するアメリカと違って、ロシアは防衛費については極端に倹約家であり、膨れ上がるアメリカの防衛産業に比較して、10 倍もカネの価値のある使い方をしている。ロシア経済が、低いエネルギー価格で苦しんだのは事実だが、それは決して崩壊などしておらず、来年早々にも、成長への復帰が期待されている。ジョン・マケイン上院議員が、かつてロシアを“国家に見せかけたガソリン補給所”と呼んだことがある。これは出まかせである。ロシアは確かに、世界で最大の穀物と核エネルギー技術の輸出国である。それはアメリカに劣らない、進歩した、高度技術をもつ社会である。ロシアの軍事力は、通常兵器も核兵器も、今すぐ戦う用意ができていて、アメリカと NATO に対して対等以上である——特に、ロシア国境付近で戦争が勃発した場合には。

しかし、そのような戦争は両側にとって自殺行為となる。我々は、ヨーロッパでの通常戦争は、急速に核戦争に変わる可能性が高く、ロシア軍あるいは国土への、いかなる米/NATO の核攻撃も、自動的に、アメリカ大陸への、ロシアの報復核攻撃につながると確信している。若干のアメリカの宣伝屋の無責任な言説とは逆に、アメリカの対弾道ミサイル装置は、アメリカの人民を、ロシアの核攻撃から守ることはできない。ロシアは、アメリカの目標を、長距離核兵器でも通常兵器によっても、正確に攻撃することができる。

アメリカとロシアが、緊張をやわらげ、国際的問題の広い領域で協力する代わりに、衝突の道を取った唯一の理由は、アメリカの指導部が、ロシアを、対等のパートナーとして受け入れることを頑なに拒否したためである。ワシントンは、自分が“世界のリーダー”、“不可欠の国家”であることに、歯を食いしばってしがみついている——その影響力が、イラク、アフガニスタン、リビア、シリア、イエメン、そしてウクライナのような、一連の外交政策と軍事的大災難の後で、着実に弱まりつつあるにもかかわらず。継続するアメリカの地球的リーダーシップは、ロシアも中国も、他の国家のほとんどが、受け入れようとはしないものである。この漸次的な、しかし明らかな、軍事力と影響力の喪失が、アメリカの指導部をヒステリックにしている。そして“ヒステリック”から“自殺的”へは、ほんの一步である。アメリカの政治指導者たちは、要自殺監視の扱いを必要としている。

何よりもまず、我々は、米軍の指揮官たちに、William Fallon 提督の例に倣うように訴えている。ファロンは、イランとの戦争について問われて、こう答えたと言われている、「私の目の黒いうちは、そんなことはさせぬ」(not on my watch)。我々は、あなた方が自殺願望者でないこと、雲をつかむような帝国主義的傲慢のために、死ぬつもりのないことを知っている。もし可能なら、どうか、あなたの部下に、同僚に、そして特にあなたの文官上司に、あなたの目の黒いうちはロシアとの戦争は起こさせない、と言っていただきたい。せめて少なくとも、あなた自身にその約束をしてほしい。そして万一、その自殺命令が発せられる日が来たら、それは犯罪だからという理由で、その実行を拒否していただきたい。忘れないでほしいが、ニュルンベルグ裁判によれば、「侵略戦争を始めることは、…国際的な犯罪であるだけでない。それは最高の国際犯罪であり、他の戦争犯罪と違うところは、その内部に全体の集積された悪が含まれていることである。」ニュルンベルグ以来、「私はただ命令に従っただけだ」というのは、もはや正当な自己弁護ではなくなった。どうか戦争犯罪人にはならないでいただきたい。

我々はまた、アメリカの人民が、無責任で挑発的なロシアいじめを行う政治家や政党に、平和的だが強力な、反対の行動を取っていただくようお願いしたい。この者たちは、アメリカを1時間で破壊してしまう能力をもつ核大国との、必要のない対決の政策を、黙認し、支持している。声を出して、マスメディア・プロパガンダの壁を打ち破っていただきたい。そして、ロシアとアメリカの対決の途方もない危険を、あなたの同胞アメリカ人に知らせてやってほしい。

アメリカとロシアが、互いを敵と考えなければならない客観的な理由はない。現在の対決は、もっぱらネオコン・カルトの過激な考え方の結果で、彼らは、クリントン大統領下で、連邦政府への潜入を許された者たちで、自分たちの指令に従わないどんな国家をも、踏みつぶす

べき敵と考えている。彼らのたゆみない努力の結果、百万を超える罪のない人々が、すでに死んでいる——以前のユーゴスラビアで、アフガニスタンで、イラク、リビア、シリア、パキスタン、ウクライナ、イエメン、ソマリア、その他多くの国々で。そしてそのすべてが、彼らの狂気じみた、“アメリカは世界帝国でなければならぬ、並みの通常の家ではない、だからすべての国家リーダーが彼らの前に膝まづかねばならぬ、さもなければ打倒する”という主張によるものである。ロシアにおいて、この傲慢な勢力がついに不動の相手に遭遇した。このような者たちは、彼らが我々すべてを殺す前に、屈服させなければならない。

我々は、ロシアが決して、アメリカをも、どんな EU 加盟国をも、攻撃しないこと、ロシアはソビエト連邦を再現することに全く興味はないこと、“ロシアの脅威”も“ロシアの侵略”もないことを、絶対的に、断言的に、確信することができる。ロシアの最近の経済的成功の多くは、“ロシア第一”の政策を許していた、かつてのソビエトの保護国を振り落としたことと大いに関係がある。しかし、我々は、もしロシアが攻撃されたなら、あるいは攻撃を脅されただけでも、後へ引くことはないこと、そしてロシアの指導部は“まばたき”もしないということ、同じくらい絶対的に確信している。大きな悲しみと重い心をもって、彼らは誓った義務を果たし、アメリカがそこから決して立ち上がれない、核の一斉射撃を開放するだろう。たとえ最初の一撃で、ロシアの指導部が全部殺されても、いわゆる“死の手”(Perimetr システム)が自動的に、アメリカを政治的地図から消し去るだけの核兵器を発射するだろう。我々は、このような破局を防ぐために、我々のなし得るすべてを行うことが、我々の義務だと考える。

Evgenia Gurevich, Ph.D.

<http://thesaker.ru>

Victor Katsap, PhD, Sr. Scientist

NuFlare Technology America, Inc.

Dmitry Orlov

<http://cluborlov.blogspot.com>

The Saker (A. Raevsky)

<http://thesaker.is>

[Пожалуйста, напишите мне, если вы хотите добавить свою подпись. Мой адрес можно найти справа наверху.]